

三陸復興国立公園に係る中央環境審議会自然環境部会現地視察における 委員意見の概要

日時：11月25日（日）～27日（火）

場所：種差海岸階上岳県立自然公園、陸中海岸国立公園及びそれらの周辺地域

出席委員：武内 和彦部会長、下村 彰男 小委員長、あん・まくどなると委員、
小泉 武栄委員、桜井 泰憲委員、敷田 麻実委員、白山 義久委員、
土屋 誠委員、中静 透委員、鷺谷 いづみ委員

1. 国立公園の自然に関する解説

- ・ 三陸海岸はこれまで海食崖の作る大景観のみが重視されてきたが、地形・地質以外にも、植生などいろいろな資源の掘り起こしが大事。
- ・ もっと地形や地質の解説があるとよい。土地の成因について、科学的な解説があると、価値が理解されやすい。
- ・ 三陸復興国立公園全体の当面のキーワードは復興と思うが、いずれは自然環境がキーワードとなる。
- ・ 三陸海岸といっても個々に見れば違いがある。三陸復興国立公園全体をまとめるストーリーがある中で個々の地域のストーリーを解説するようにすべき。
- ・ 一定の水準の情報を地域で自然を解説する者に提供することが必要。場合によっては解説者の認証をしていくような仕組みも必要。
- ・ カキやサケなどは、森・里・川・海のつながりをわかりやすく説明できる素材。そのほかにもいろいろな素材がある。

2. 新しい利用の考え方

- ・ 知的な好奇心を満たす観光をこの国立公園の1つの目標とすべき。
- ・ 種差海岸階上岳の文化的側面を併せ持つ自然は、これからの利用の需要に合う景観。
- ・ ジオパークとしては災害の遺構の保存も大切。
- ・ 海路で移動することや海から風景を眺めることも重要。
- ・ 特徴的な利用拠点を自動車、海路により線的につなぐことや、パークウェイを目指すことも考えられる。
- ・ 学習プログラムを作成し、修学旅行を受け入れる体制づくりが必要。

- ・ バリアフリーの対応が必要。
- ・ 景観に加え、地域の食材、伝統的加工食品、地元で食べることのできる料理などの「食」の楽しみを作り出す工夫が必要。

3. みちのく潮風トレイル

- ・ トレイルの管理や運営方法は早急に議論が必要。
- ・ トレイルの交通手段の確保や、自家用車で行ってもある程度の距離を歩けるようなシステムが必要。
- ・ 荷物を次の宿に送るサービスも必要。

4. 協働型の管理・運営体制

- ・ 南北に長く、多数の自治体に関わるので、協働型の管理により線的につながり、ネットワークを作っていくことが重要。
- ・ 地元の博物館、資料館等の文化的施設を活用することが重要。

5. 森・里・川・海つながり

- ・ 森里川海つながりについては、現状では海から山までつながった国立公園というイメージがつかみづらい。将来的に、どこかつながりを作れるところを見つけて指定できるとよい。

6. 防潮堤

- ・ これまでと同じような構造物で対策を行うのが本当にいいのかどうか、新しい概念に基づいて対応する必要がないのか、考えていくことができないか。
- ・ 人が住まないところや、防潮堤がない場所とか低い場所を作りたいと住民が納得している場合は、それが景観や生態系保全とマッチしていくということをもう一度強く伝えて、防潮堤ありきではない議論ができないものか。
- ・ 自然を基礎にしたレジリエンスの強化をした方が、社会にもベターで、経済的にもよくて、地域社会の人々にとっても良いという理屈を考えていった方がいい。その中で、国立公園はそういうものを示すモデルとして位置付けていくことが重要。